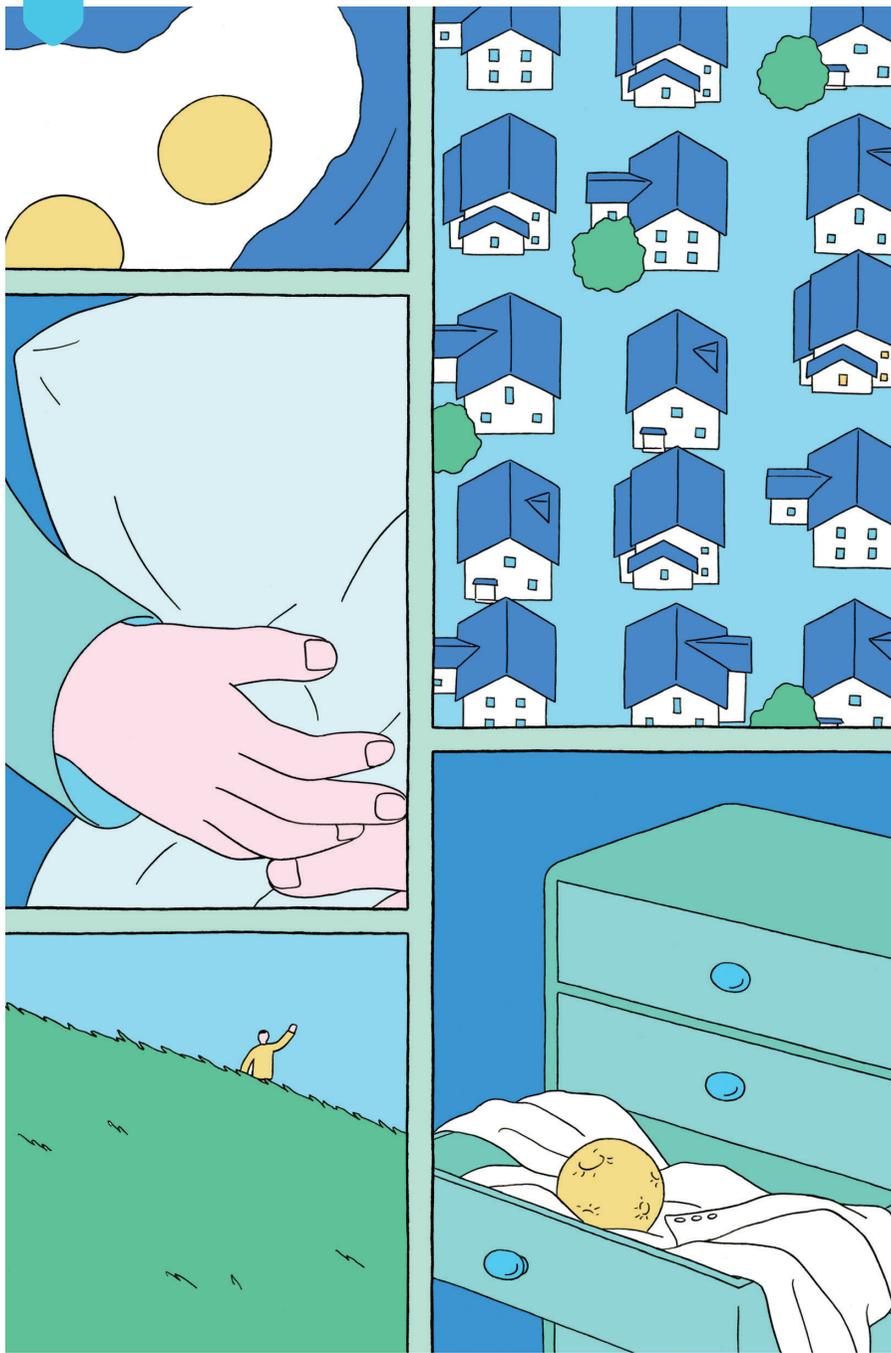


国語教育相談室

96

中学校



特集

国語の楽しさ、学びの楽しさってなんだろう

■国語道場 番外編
若き日の失敗談

■書写
学ぶ意味を知って、
楽しく学ぶ



数と日本語

早稲田大学教授
森山卓郎 もりやまたくろう

まず、クイズから。「一二三四五」と声を出してから、「五四三二一」と声を出してみてください。あれれ、何か違いはありませんか？——そう、違うのは「四」の発音。順に発音する場合はそのまま一続きでまとめて音読みで「し」と言う。しかし、逆さの順だと一つ一つの数字を別個に意識するので、発音のうえでも「よん」と言うのが普通だ。

「四」の発音はおもしろい。この背景には、「四」の音読みが「死」と同じになるのでそれを避けるということもある。まあ、「四者協議会」が「死者協議会」になったらちよつと嫌ですからね。

「四」といえば、「ひとつ、ふたつ」「みつつ、むつつ」「よつつ、やつつ」などの関係もおもしろい。なんと、日本語では、一と二、三と六、四と八、というように倍数関係は語形の一部（子音の部分）が共通しているのだ。遠い

昔、日本語を話していたご先祖さまたちは、なにげに「数」に深い理解があったようだ。ちなみに、万葉集にも、「十六」と書いて「しし」と読むなど、九九を利用した表記があった。

概数表現もおもしろい。日本語には、「二人」「七、八回」のように隣の数字を並べる言い方があって、曖昧に数を言うことができる。これはなかなか便利な表現で、「本当は四回だったっけな」と思いながらも、「いやあ、私も、忘れたことが三、四回あります」と、ちよつと小さいめにずらして見栄を張ったりできる。間違いではない。合法的に(?)、さりげなくええカッコしてごまかせちゃうのだ。

ところが、「十」が絡むとそれが言えない。「九、十人」「十、十一回」などという言い方はしないのである。では、どう言うか? 「九ないし十(人・回)」のように分解した言い方もあるが、慣用的にまとめて言うならば「十(人・

回)前後」のような言い方になる。十は一つの区切りとなる目印の数であり、この数については十を中心に、「九、十、十一」でワンセットになっているのだ。だから、「たしか、九回しか勝てなかつたよな」と思っている、「いや、勝つたのは、十回前後ですわ」と言う、「十一回」まで含むことになって大幅に得をする。

まあ、損か得かは別として、「十」はまさにまとまった数であり、十の場合それを中心に考えるんだぞ、という概数の考え方がすっかり日本語という言葉に反映されているのだ。もちろん、「約」「およそ」なども目印のまとまった数にしかつかない。概数としての表現上、約一千四十八字などとは言わない。

ということで、ここまで約一千字、読んでくださり、ありがとうございます！

■探検! 言葉の森 45
数と日本語 ● 森山卓郎

■巻頭エッセイ 言葉と向き合う
手書きで綴ることば ● 井原奈津子

特集

国語の楽しさ、 学びの楽しさってなんだろう

【対談】楽しい国語の授業とは ● 甲斐利恵子 / 宗我部義則

楽しさは苦しさとともにある ● 藤森裕治

【リエコの国語道場 番外編】若き日の失敗談 ● 作・画 / あべかよこ

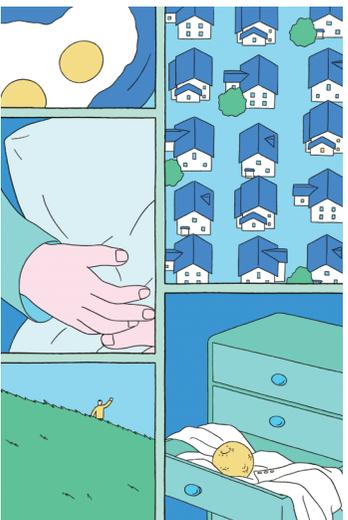
16

■全力! コーリーのなるほど書写授業 4
学ぶ意味を知って、楽しく学ぶ ● 作 / 藤井浩治 画 / ホリグチイツ

04

02

CONTENTS



表紙イラスト 大津朝乃

手書きで
綴ることば書道講師
手書き文字愛好家

井原奈津子

「手書き文字」を特別に意識しはじめたのは小学一年生、硬筆コンクールで賞をもらったときです。「字で褒められることがあるんだ」とびっくりし、それがきっかけで、まずは書くことが好きになりました。

三年生のころには、「丸文字」とよばれる、丸っぽく書く字が主流行し、私も大いに影響を受け、手紙や交換日記に、せっせと丸文字を書きました。

そのうちに、同じく丸文字を書く友達やアイドルの字、はたまた丸文字を書かない友達などが気になるようになりました。同じ丸文字でも、人に

よって印象が違う。こんなにはやっていかわいと思う丸文字を、なぜか書かない、もしくは書けない人がいる。そんなふうの子供のころから手書き文字への愛着を深めていった結果、手書き文字を捨てることができず、我が家の押入れは四十年分の手書き文字で溢れかえっています。

幼稚園のとき、友達のゆみちゃんが覚えてたのひらがなで一生懸命書いてくれた年賀状。小々中学校時代の交換日記や、授業中にこっそり回って来たメモは、その時々のはやり文字が、それぞれの友達の個性で書かれていて懐かしい。亡くなってしまった祖母からの「ばあちゃんより」と書かれたお年玉袋。

高校生くらいからは、「これは」と思った文字を、スクラップブックに収めるようになりました。美術予備校でもらった、わざと汚さを足したような、芸術的な文字で書かれた受験の手引き。音楽雑誌を作るアルバイトをしていたときに、レコード屋の店員さんからフックスさされてきた真面目そうな字。雑誌に載った、ミュージシャンのかわ

いらしい字。好きな字を、いつでも見られるようにしたかったのです。ときどきブックを開いては、「この字いいわあ」と、うっとり眺めました。

二つ上の姉とは、子供のころからよく手書き文字の話をしました。丸文字をどう書くかから始まり、「な」の字のかわいい書き方、また、漫画家の本田恵子さんの字はかわいいよね、とか。中学生のころには「いまだどんな字書いている？」と、ときどきお互いの字を確認しました。あるとき、しばらく字を見せ合っていないなかったのになぜか字が似ていて、「わかる！ いまそんな気分だよ」なんて笑ったり。

手書き文字はなぜ楽しいのか。それはズバリ、同じものではなく、全部違うものだからだと思います。人の顔のように、一つとして同じものはない。当たり前前のようにだけど、不思議です。

いろんな情報が乗っかっているところもおもしろい。書く技術、スピード、使った筆記具など。さらには、それを材料に、書いた人の性格や感情などまで伝わってくる、というより、想像してしまうところ。

先日、音楽家の坂本龍一さんが亡くなりました。そのときに、同じく音楽家の小室哲哉さんが、SNSに「教授へ あなたに憧れてきました。」からはじまる、短い手書きのメッセージを發表しました。私はその文字にとても心を打たれました。

ラフな走り書き。その整えていない文字の形からは、飾らない人柄、走っている線からは、悲しみがいっぱい

とても冷静ではられないような感情の揺れを感じました。

私は、小室哲哉さんのことは好きなミュージシャンというわけではなかったのですが、このメッセージにはとても心を動かされました。その文章の内容ももちろん感動的なのですが、私はその文字の「形」から、より細やかな衝動や悲しみを感じ取れたと思うのです。

手書きの文字は、その線から、書いているときの速度を、無意識にでも感じ取ることが出来ます。書いているときの速度、すなわち、頭に浮かんでから手を動かすまでの時間と、書いている時間。その時間を、文字を見ることが追体験できる。そうすると、その人の頭のなかに入り込むような感覚になるところがあるのです。

最近パソコンやスマホなどで文章を書くこと



井原奈津子

書道講師、手書き文字愛好家。
1973年神奈川県生まれ、多摩美術大学デザイン学科卒業。著書に『美しい日本のくせ字』（パイ インターナショナル）、『字はうつくしい』（月刊たぐさんのふしぎ、福音館書店）。

YouTubeチャンネル『井原奈津子の「美しい日本のくせ字」』<https://www.youtube.com/channel/UCFkcrtfX4AA2hMUKzPU7iQ>

が多くなりました。だから年賀状や手紙などを書くときは、「生っぽい自分」をさらけ出す貴重な機会」とも捉えて、わざとくらくらに、思いつくままに、その人に話しかけるように書いています。書く相手は普段会えない人が多いので、せめて手書き文字で交流をしたい。心をこめて、優しい気持ちで書きたい。小室さんみたいに、気持ちが伝わるといいのだけれど。



国語の楽しさ、

学びの楽しさって

なんだろう

子どもたちにとって、学びの原動力の一つが「楽しさ」であることは間違いありません。では、国語の学び、言葉の学びにおいて、「楽しさ」とはなんでしょうか。そして、それを

日々の授業の中でどのように子どもたちに伝えていけばよいのでしょうか。

四十年以上、中学校で子どもたちを見つめ続けている甲斐利恵子先生

(軽井沢風越学園)と宗我部義則先生(お茶の水女子大学附属中学校)に、

国語の楽しさ、学びの楽しさについて掘り起こしていただきます。

また、藤森裕治先生(文教大学)からは、学びにおける「楽しさ」と「おも

しろさ」との違いについて寄稿いただきました。

対談

楽しい国語の授業とは

軽井沢風越学園

甲斐利恵子

お茶の水女子大学附属中学校

宗我部義則

楽しい学びって何？

—子どもが感じる「楽しい授業」「楽しい学び」とはどういうものなのでしょうか。

宗我部 楽しい国語の授業とは、言葉の学びや活動の中にいろいろな楽しさがあることかなと思っています。例えば、文章を読んで新しい知識を得る楽しさもあるでしょうし、活動自体が楽しいということもあるでしょう。ただ、活動の奥に「わかった!」「できた!」という楽しさがあるのが大事ですね。

甲斐 国語が苦手な子どもは、途中でわからなくなったり、めんどくさくなったりして、嫌いになるのではありません。本当は「できたらいいな」「楽しみたいな」「わかりたいな」と思っているんです。嫌でや

りたくないというより、やりたいのにできないから楽しくない。だから、「苦手だけど、これならちょっとできるかな」みたいなさっかけを作れば、楽しく学べるようになると思っています。

宗我部 まさに、そのとおりですね。「ああ、なんかわかりそう。もう少しでできそう」というときに、グッとスイッチが入る感じですね。

甲斐 もちろん、子どもが感じる楽しさというのは多様ですから、みんなが楽しく感じられるようにするのは難しいですね。一人一人、すべての子どもに合わせていたら、振り回されてしまいます。

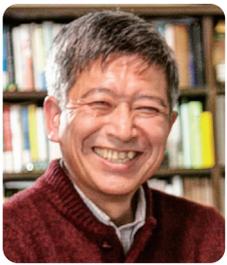
宗我部 私も一時期、群読の指導に夢中になっていたとき、ある先輩の先生から、「君はもしかしたら、クラスの全員に群読を楽

しいと思わせる授業をしようとしてないかい」と言われました。私が、「みんながそう言ってくれたら、うれしいと思っています」と答えたら、「それをファシズムといいます」と指導をいただいたことがあります。「群読を楽しんでいる子どもたちもたくさんいるでしょう。自分は苦手だということもあって、それでいいんじゃない? 次の単元では、その子が楽しいと思える授業を工夫するとよいのです」と。

ある子どもが楽しいと思っても、他の誰かはちよつと違うと感じている。でもトータルとして、「国語の時間って楽しいことが多い」と思えて、嫌いにならなかつたら、まず成功なのではないか。その言葉を引きかけに、そう考えるようになりました。

甲斐 「楽しい学び」とはこうでなければならぬ、という決まりはないですからね。だから、私は、教師自身が本気で楽しいと思う活動や素材を提供してみることがスタートだと思っています。それを子どもたちにもやりたいと思わせるには、どんな仕掛けをすればいいかなと考えることが大事かな。

宗我部 そうですね。先生が、「これ、楽



若い先生たちこそ、
いろいろなチャレンジをしてほしい。

「楽しい授業」の ヒントはどこにある??

——甲斐先生、宗我部先生は「楽しい授業」のヒントをどこで見つけていらっしゃるの

甲斐 つまりそれは、子どもたちが今、どのくらいの力をもっているかを、宗我部先生が知っていたということではないかと思うのです。だから、いつも登りたくなる山を作る人は、子どものことをちゃんと見ている人だと。そういう先生が、子どもに楽しさを生み出す力を与えられるんだろうなと感じました。

宗我部 そういう意味では甲斐先生も、子どもたちがふだん話している言葉ではなく、例えば「文学を語るための言葉」に触れて、それを使って批評をするなどの授業をされていますが、それが子どもにとって120%の山になるのですよね。

宗我部 私が「ダイコンは大きな根？」の

ペアになって、一人が「月日は百代の過客にして」と古典の原文を読んだ後、もう一人が「月日は永遠に旅を続ける旅人のようなものであり」と続ける形式です。けれど、クラス全員に朗読する機会を設けられて、しかも聞いている他の子どもも内容やリズムを学ぶことができます。

甲斐 私の場合、本屋さんが多いですね。ただ、本そのものではないこともあります。ふらっと寄った本屋で立ち読みをしていたとき、すぐ近くのコーナーでスピーカーで「アイハブアペン……私はペンを持っています」みたいな感じで、英語と日本語が交互に流れてくるんですね。そのとき、「これって古典の朗読で使えるかも」とひらめいて、「おくのほそ道」リレー朗読の授業が生まれました。

大村先生にはなるのは 難しい

——そうしたヒントが、すぐに実践に結び付いていくのですか。

授業で子どもたちに示した「ニンジンとカブはダイコンとよく似た根菜だけど、どこまでが根でどこから茎か」という話題は、職員室のおしゃべりの中で理科の先生からいただいた「根菜うんちく」です。「君は『最後の晩餐』を知っているか」で扱った修復前と後の二枚の「最後の晩餐」の絵は、美術の先生との会話から。職員室のおしゃべりは、授業のアイデアの宝庫です。

甲斐 ふだんの生活の中にもたくさん教材や指導のヒントはありますよね。大事なものは、まずは視野を広げて、自分が興味をもつてみることでですね。

甲斐 大村はま先生は、「この教材が使える

宗我部義則

埼玉県生まれ。光村図書中学校「国語」教科書編集委員。平成20年告示中学校学習指導要領解説国語編作成協力者。編著書に『群読の発表指導・細案』（共著・明治図書出版）、『中学校国語科新授業モデル 話すこと・聞くこと編』（共編著・明治図書出版）など。



自分の「楽しさ」を仕事にできる。
国語の教師って本当に楽しい。

しいはずなんだけど……」と、迷いながらもやっていると、子どもたちも不安にこそなれ、楽しめないですよ。

「楽しさの質」とは

——楽しいだけで、実はほとんど学びがない授業になってしまったという反省を聞くことがあります。

甲斐 わからせよう、覚えさせようと思っている先生よりも、楽しもうぜって思っている先生の授業のほうが子どもたちにとってずっといいのは、そのとおりです。ただ、その「楽しもうぜ」の裏側で、それが学びにつながっているかどうかをしっかりと見極めていかなければなりませんけれどね。つまり、「楽しさの質」というのが、大きなポイントになります。

宗我部 いろんな楽しさがありますよね。ただただガハハと笑いたくなるような楽しさ

もあるだろうけれど、知的に楽しいと思ってもらえることが授業の役割だと思います。自分が知らなかったことがわかったとか、できるようになった、知識が増えた、ちよつと成長できた気持ちになれたとか、そういう楽しさを国語の授業で体験させてあげたいと思います。

甲斐 ガハハと笑わなくても、楽しいという感覚や充実感で自分が満たされていくことを覚えたなら、もう元へ戻れないんですね。「知」というものに向かっているかどうかというのは、すごく大切な要素だと思います。そういう楽しさを切実に求めている子どもからすると、やらされている感じや、知識を与えられているだけといった手ごたえのない授業では楽しさは感じられなくなります。困難はありそうだけれど、登りたくなるような山がそこにあるというのも、すごく大事な楽しさにつながっているんです。

宗我部 そういう登りたくなるような山がちゃんと見えてきたときに、なんとか越えてやろう、なんとか達成してやろうと、子どもたちは本気になりますね。そこに「本気スイッチ」が入り、本当に楽しい世界に入っていくとする姿が現れます。

甲斐 ノーベル賞を受賞した田中耕一さんが「120%の設定力」ということをおっしゃっていました。100%でも150%でも200%でもなく、120%を考えて自分に課題を課していたのが成功した原因だと。自分が目ざすレベルを知っている人は、どんなことがあっても大丈夫なんですよ。それを知らない人は、例えば急に勉強するぞと徹夜して、三日も続かないうちにダウンする。

宗我部 私も、ある課題について子どもたちに考えさせていくとき、条件設定をしたり、あえて制約をつけたり、誰とやるかという場面を作ったりというようなチャレンジをさせてきました。

ると思つたら、必ずすぐ使うことを禁じます」とおっしゃっています。

宗我部 なるほど。

甲斐 そこが私たちと違うところなんですよ。私は、おもしろいと思つたらすぐ教室で「ほらほら、おもしろいでしょ。やってみようよ」となつてしまいます。

宗我部 やりたくなくなっちゃいますよね。

甲斐 やっぱり大村先生にはなれないですね。

宗我部 でも確かに、おもしろそうと思つたものをすぐに教材化するのは難しいことがありますね。先日、お茶の水女子大附属中学校の公開研究会で、写真集に詩句を添える授業を行ったのですが、構想から三年くらいかかっているんですよ。もともと発想の種は、たまたま出かけた写真展で見つけた写真集でした。片側のページに写真があり、もう片側のページに小澤征良さんが一行ずつ詩を添えているものです。ストリートな写真の説明ではなく、よい距離感をもつた詩の言葉なんです。これはおもしろいと思つたのですが、同じ写真集を使つて子どもたちに詩を作らせても、どう考えても小澤さん以上のものは作れないだろうなども考えました。そのまま寝かせて温めて、今年の春、これならできると思える写

げてほしいですね。

私は若いころ、研究授業で「平家物語」を、子ども向けの絵本だけを使ってやったことがあります。自分ではおもしろいなと思つていたのですが、「それって古典の授業じゃないでしょう」と指導主事の先生や先輩たちから言われました。でも、指導主事の先生は「十年たつて同じようなことをやっているようじゃだめだけど、今、自分で教材を見つけてきてチャレンジしたということが大事です」と言ってくださいました。それが今の私をつくっている根っこかなと思つています。

甲斐 そういう若い方の前向きな思いを大切にしてくださる人の意見は本当に大事だと思います。

宗我部 ベテランの先生方には、若い先生たちがいろいろチャレンジしていくのを見守る目というものをぜひ意識していただきたいですね。若い先生こそが自分で楽しんで授業をやっている学校にしていってほしいなと思います。

甲斐 若手に限らず、教師一人のアイデアには限界があります。子どもたちも友達がいるからこそ力がついたり、学ぶことの楽しさを知ったりするんですね。そのことを大人の世界に敷衍して考えてみると、やっ

真集『STKILDA (セント・キルダ)』を見つけて、ようやく三年かけて実践にこぎつきました。

見つけた素材に、これならいけるかもつていう見極めがつく瞬間があるんじゃないですかね、教材の発掘って。それは教材自体を見つけた瞬間かもしれないし、本当においしく食べるための味付けのしかたを思いついた瞬間かもしれません。

楽しさは主体性にあり

——大村先生の実践から学ばれたことは多いのですね。

宗我部 本当にいろいろなことを学びました。例えば、大村先生は、課題を出すときにいくつか選択肢を提示されます。そして、そうした課題の最後に子どもたちが自分で考えてもいい選択肢を置かれるんです。子どもが自分で考えた課題に取り組むという「主体性」の尊重ですね。そこから子どもが本気になり、楽しい授業へと発展していく。

甲斐 選ぶという行為が、子どもたちの機動力にもすごく関係しているということとは感じますね。「この課題でやってみて」と言うのではなく、「どれにする?」と言つただけで、もう全然、子どもたちの学

習意欲は違ってきました。

宗我部 AとBとどっちでやる?というだけでも、子どもたちの主体性は動き始めると思いますが、AでもBでもないCを自分ならこうやるという思いが芽生えたとき、まるで子どもの動きが違ってくるんですよ。おもしろいですね。

甲斐 こういうことに取り組ませ、こういう力をつけたということ、きちんと目標を立てて実践することは大事なことです。けれども、そこに子どもたち自身が選んで取り組むという主体性があるほうが、もつともつと学びの可能性は広がるように感じます。

楽しい授業のために「急がば学べ」

——先輩教師として、若い先生方にぜひ伝えたいことはありますか。

宗我部 若い先生たちには、まず基本的な授業ができるようになることが大事だという考えもあります。でも、若い先生たちにこそ、いろんなチャレンジをしてもらいたいと思います。失敗したつていいと言うのは子どもたちに対して失礼かもしれませんが、少なくとも周りが長い目で見守つてあ

ぱり学び合う仲間がいるということが大切なんです。まずは、そうした勉強の場を求めて動いてみる必要があるのではないかと思います。若いアイデアを大切にと言う人もいますけれど、勉強していない人は若くても年取つていても、アイデアなんか浮かびません。

「急がば学べ」が大事です。

宗我部 自分が楽しみ、楽しい授業を作るためには、まさに「急がば学べ」ですね。

甲斐 私がもし一人でやっていたら、ただがむしゃらに自分がいいと思うことを子どもに押し付けるタイプの先生になっていたかもしれないなと思います。実際には、勉強会の中で、自分の毎日の仕事、実践を通

して困っていること、よかつたことを言葉にして聞いてもらつていました。アドバイスをもらうチャンスがあつたのが、自分自身の楽しさにもつながっていたような気がします。自分の世界をどんどん広げていくチャンスに、どう関わり続けられるかが、楽しむ力につながりますよね。

宗我部 今日の対談でいちばん強く感じたのは、やはり自分自身が楽しむことが楽しい国語の授業作りの根っこだろうということですね。そしてそのために、いろいろな苦勞を乗り越えていくことも楽しむということですね。

甲斐 自分の「楽しさ」を仕事にできる。国語の教師つて本当に楽しいと思います。

実践紹介

▼甲斐先生

子どもの中で生まれてきた感情をどのような言葉で言い表すのかに着目し、「学び続ける力」を育てていく実践です。

「生まれ出る思い 生まれ出る言葉」あれから10年—東日本大震災—



▼宗我部先生

この対談でも話題となつていた「知らない世界、知識にふれる楽しさ」をテーマにした実践です。

説明文の読みの学習をもっと楽しく「ダイコンは大きな根?」



楽しさは 苦しさとともにある



文科大学教授 藤森裕治

おもしろさと楽しさ

「今日の授業はおもしろかった。」子どもたちからこのような言葉が出たとき、多くの教師はやりがいと手ごたえを感じ、満足する。もとより、退屈でつまらない授業よりも、おもしろかったという実感をともなう授業のほうが、当の子どもたちにとって記憶に残る有意義な授業であることは言うまでもない。

しかしながら、何が子どもたちにとっておもしろかったのかを省察してみると、例えばゲーム感覚の活動だったり、教科書教材の内容だったり、教師の技術だったりする。これらがおもしろかったと感じていた場合、いずれも提供された活動や素材などへの興味・関心であって、子どもたちが自ら工夫したり創造したりした結果として得られる感覚とは異なる。日常生活に敷衍す

れば、お笑い芸人のパフォーマンスを視聴して、「誰々の芸はおもしろかった」と言うのと同じ感覚だ。ここに、「おもしろい」という感想の落とし穴がある。

子どもたちにおもしろいと思わせる授業づくりは腐心していると、時として、果てのない供給作業に疲弊することがある。今度はどういう仕掛けでおもしろがらせようかという姿勢は、子どもたちを大切に思う教師の心がけとして賞賛すべきものではあるが、多くの場合、きりがいい。そして少なからぬ教師は、お笑い芸人がそうであるように、おもしろい授業を提供し続ける作業の限界を迎える。子どもたちの興味・関心をそそる話題、目新しさや意外性のある素材、娯楽性や遊戯性を意識した活動などを提供しても、それがいくたびか繰り返されると、子どもたちはすぐに馴れ、飽きてしまう。かれらはより刺激的な「出し物」

を授業に求めてくる。そしてその「出し物」が枯渇しかけたころ、「なんだか最近の先生の授業はおもしろくない」という声を耳にすることになる。ほかでもない、高校国語科教師として初めて教壇に立った筆者がその一人であった。

「楽しい」は 生産者としての感覚

「おもしろい」は、多くの場合、消費者的な感覚である。対義語が「つまらない」所以である。消費者的な感覚は、勞せずして満足の得られる状況を期待させる。授業という出来事にこの感覚が持ち込まれると、子どもたちは教師のサービスを要求することになる。

これに対して、「今日の授業は楽しかった。」という声が聞かれたときはどうだろうか。楽しさはおもしろさと相反する感覚ではないし、おもしろくてなおかつ楽しい授業であれば申し分がないはずだ。そうなれば、教師の満足もひとしおであろう。けれども、「おもしろい」と「楽しい」との間には、ニュアンスの存在を認めざるを得ない。

それでは「おもしろい」と「楽しい」との間にある、決定的な違いとは何だろうか

か。例えば、かんかんがくがくの討論、調査発表活動、あるいは創作俳句の披露などを行った後で「楽しかった」という声が聞かれたとき、すべてにおいて子どもたち自らの取り組みがある。これらの述語を「おもしろかった」と言い換えることは可能だが、「おもしろい」とした場合、右の諸事例を傍観していた者でも言うことができるのに対し、「楽しい」と述懐する者は、自分で立ち向かった事実をもっている。すなわち、「楽しい」は消費者ではなく生産者としての感覚であり、主体が自ら何事かを行って初めて得られる感覚なのである。

とすれば、いまここで行われている授業の学びが「楽しい」ものとなるかどうかは、教師の采配だけで決めることができな。子どもたちが題材や眼前の活動・素材に胸を躍らせ、内発的な充実感を覚えることなくして、「楽しい」という感覚は得られない。教師はそれを啓発するための触媒であり、学びを促進する環境として、かれらとともにある。

試行錯誤と自己主導 (Self-direction)

針生悦子(※1)によれば、乳幼児の言語獲得とは「一つ一つの単語の意味を

ぐって、試行錯誤を繰り返していく」作業である。語彙爆発とよばれる二歳児の驚異的な語彙量の増加は、自然になされる生得的な現象では決してなく、かれらのあくなき努力のたまものである。言語獲得が未熟な乳幼児にとって、未知なる事物へのとまどいや伝達意図の不達といった事態は、山のように訪れる。その中で生活する日々は、外国語の初学者が海外渡航して味わうのと同様、一種の苦しさをとまなう。けれども乳幼児はあきらめない。単語の聞き分け方から発音の仕方、単語の種類や意味といった母語の仕組みを自力で見つけ出すまで、何度でも失敗しながら経験を重ねていく。その結果として起きるのが語彙爆発であり、苦しさをくぐり抜けているからこそ、言葉を通して人とかわるごとの楽しさが満面の笑顔となって実を結ぶ。

カール・ロジャーズ(※2)によれば、大人が子どもを信頼し、共感的理解によって「受容(Acceptance)」の態度を醸成することは、子どもたちに「自己主導(Self-direction)」型の学びを促し、子どもが中心となる学びの実現に貢献する。要するに、子どもたち自身の成長する力を信じてかれらに伴走する姿勢が、学びを確かなものにするということである。乳幼児の言語獲得

もまた「自己主導」型の学びとしてなされるが、上述したように、そこで味わう「楽しさ」は、ある種の「苦しさ」ともなることを意識しておく必要があるだろう。なぜなら、子どもたちが自らの成長を目ざして学びを遂行するとき、かれらは現在の自己を否定し、自らを自らの手でより望ましい存在に変える作業を必要とするからである。その作業は、結果として自己実現という「楽しさ」を与えてくれるが、同時に肉面的成長は誰にも頼れないことを思い知らせ、例えば試行錯誤という「苦しさ」ともなることになる。

このことを自覚し、それでもなお自分をよりよい存在へと変容させようとする能力を、ハートらは「変容可能性(Transformability: Hart et al., 2006)」と名付けている(※3)。繰り返しになるが、自身の成長を目ざして自ら行う学びに埋め込まれた真の「楽しさ」は、多かれ少なかれ、その対義語である「苦しさ」ともなる。だがその苦しさは成長にとって欠かすことのできないストレスであり、そう自覚していれば、決して不快な感覚ではない。すぐれたアスリートが過酷なトレーニングをいとわないメンタリティも、これと同じである。

※1 針生悦子 (2019) 『赤ちゃんはことばをどう学ぶのか』中公新書ラクレ

※2 カール・ロジャーズ、ジェローム・フライバーグ (2006) 『学習する自由 第三版』晶瀬稔・村田進訳、コスモス・ライブラリー

※3 Susan Hart, Annabelle Dixon, Mary Jane Drummond, Donald McIntyre (2006) Learning without Limits, UK: Open University Press.

大村はま…国語教育界の伝説の巨人



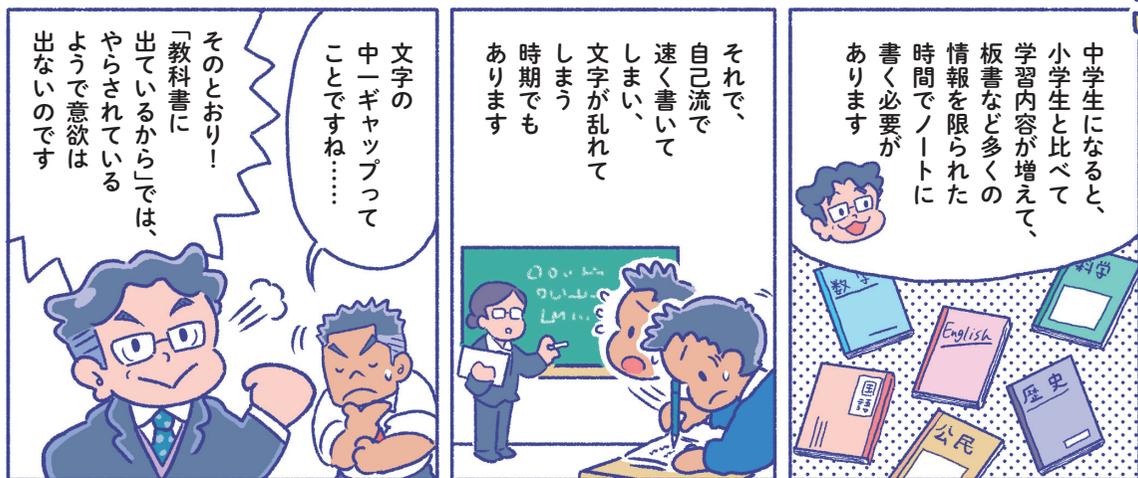
リエコ先生(軽井沢風越学園 甲斐利恵子先生)
がべ先生(お茶の水女子大附属中 宗我部義則先生)



全カ!コ-ジのなるほど書字授業

Vol.4 学ぶ意味を知って、楽しく学ぶ

作/藤井浩治 画/ホリグチイツ

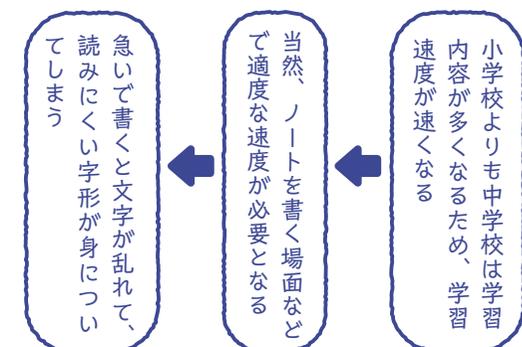


学ぶ意味を知る

その1

行書を学ぶメリットを知るべし

小学校の教師は、子どもの書き写すスピードに合わせて、一画一画丁寧に、ゆっくり板書しています。中学校一年では、小中の接続を意識して生徒を導く必要があります。行書をなぜ学ぶのか、学ぶとどうなるのかを理解させてから学習をスタートする



メリット

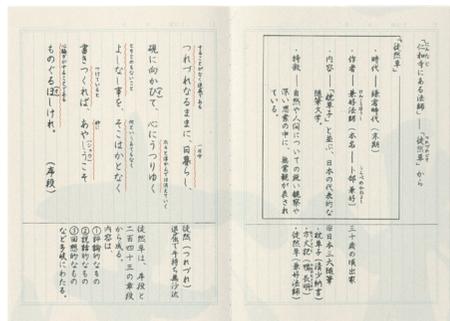
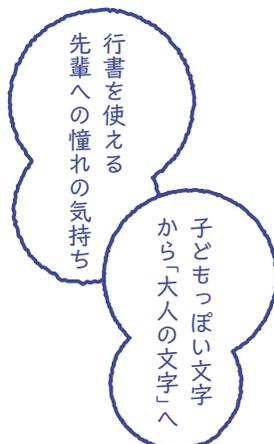
行書は、速く整えて書くことができる

学ぶ意味を知る

その2

行書を学んだ後の姿をイメージさせるべし

行書を書けるようになった自分の姿をイメージさせてから、学習をスタートする



▲ 中学校2年生の作品、ノート

姿勢・持ち方の意味を知る

その2

肘を高く構えるべし

脇を閉じると「肘」を支点にして小さな動き

肘を高く構えると「肩」を支点にして、大きな動き

脇を開いて、肘を上げると、可動域がぐんと広がり伸びやかな線が書けます

スポーツでも構えが小せえと大きな動きはできない。バットやラケットの握り方をまねがえたらうまく打てねえ。筆も同じだっちゃ

本当だ……行書の導入を工夫したっけ、生徒の雰囲気が変わった

ようし！ そしたら行書を書くべ！ まずは姿勢だっちゃ！

背中がびん！ 足の裏を床に付けて

だめだめ！ その姿勢は！ 姿勢が大切だ！

しまった……まだ雰囲気が悪くなったような……

どよ〜ん

型にはめようとするだけでは生徒にとって「やらされ感」が強くなってしまいます。姿勢や持ち方が大切な理由を伝えて、納得させるとよいです

理由なんて……

姿勢を意味できている！

Good!

わかったからといって全員ができるわけではないですよ

できていない人を注意するのは、ではなく、できている人を大きな声でほめます

生徒たちの表情も変わってきたっや！ よろし、やっべ！

基本である姿勢・持ち方を徹底してほめれば必ず結果が出てきますので成果をほめて楽しい学びを創造していきましょう！

子どもたちを「書写好きに」……熱い思いでコージーは次の学校へ……

姿勢・持ち方の意味を知る

その1

親指を横向きにすべし

鉛筆は先が硬いので

斜めにしても芯の先が紙に当たる

斜めにするとう穂の先は逃げてしまいます

筆は先が柔らかいので

だから毛筆は立てて書く

親指を下を向くと、手首を曲げないと立たない

だから、すぐに筆が斜めに……

親指を軸に対して横向きにすると筆が倒れにくくなる

“学びをワクワクさせるのは
デジタル教科書だ”



光村図書 デジタル教科書 & デジタル教材

商品
ライン
ナップ

◆ 令和3年度版中学校教科書準拠

— 指導者用デジタル教科書(教材) [学校フリーライセンス]

国語 1~3年 26,400円 (1年間利用)

英語 1~3年 27,500円 (1年間利用)

— 学習者用デジタル教科書 [ユーザーライセンス]

道徳 1~3年 各660円

— 学習者用デジタル教科書+教材 [ユーザーライセンス]

国語 1~3年 各1,100円 英語 1~3年 各990円

好評
発売中

詳しい
商品情報は
こちら ▶▶▶



光村図書
ウェブサイト

光村図書

検索



小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ



光村図書 LINE
公式アカウント
友だち募集中!



中学校 国語教育相談室 96号 2023年5月15日発行

発行者 吉田直樹

発行所 光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話: 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp

印刷所 株式会社 加藤文明社

デザイン mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」
にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

【教育情報誌に関するお問い合わせ先】

住所変更・配送停止: ej1@mitsumura-tosho.co.jp

ご意見・ご感想: koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書